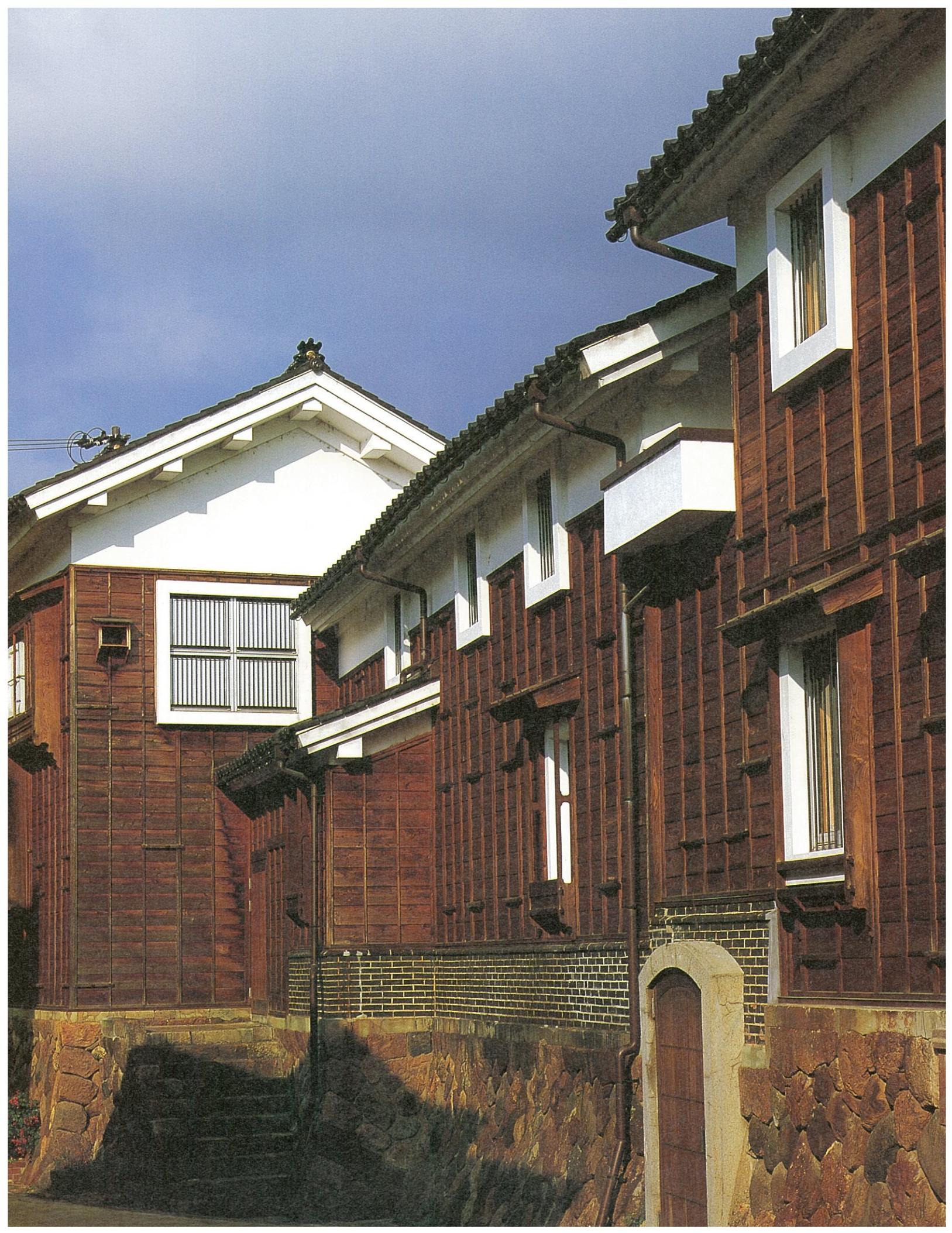


再生する遺産



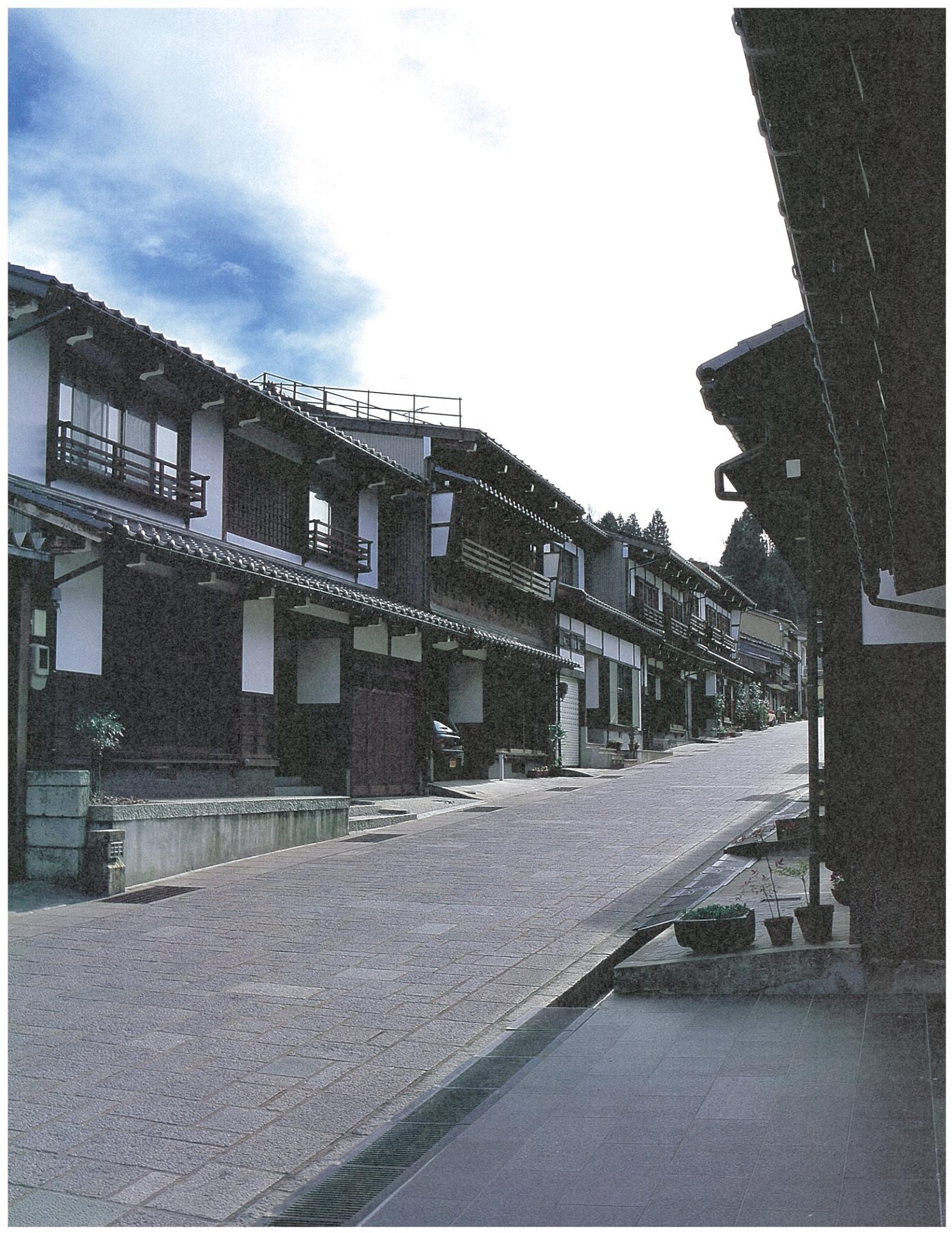


土蔵再生の町なみ風景
【城端町・蔵回廊】

蔵回廊と呼ばれる土蔵は、善徳寺に向かって左側に位置する。土蔵はゆるくカーブした道沿いに雁行型に連なり、反りのついた石垣に建つ景観は堂々としていて城郭を感じさせる。

明治期を感じさせる釉薬煉瓦積みの基礎と、上部をアーチ型にした出入り口などの造形は意匠的である。また、外壁は補修がし易いように軒下まで取り外しができるように下見板とし、窓まわりと土扉ごと出窓状にすっぽりと覆っている造形はすばらしく、町なみ景観を印象的なものにしている。土蔵の屋根は、置き屋根ではなく、上等な軒先まで白漆喰で塗り込んだ塗籠になつていて。

土蔵の正面側と内部は、現代的な造形に改造されてミュージアムになつているが、一方に伝統的な外観を遺し、町なみを再生したことは高く評価されるものである。



風の盆が似合う町再生
【八尾町・諏訪町通り】

八尾は養蚕で栄えた町として町人文化が華開いたことで知られるが、その名残は曳山とおわら風の盆に見られる。

諏訪町通りは、八尾旧町と呼ばれる町家が集まる地区の東端に位置する。この通りは直線的だが、ゆるやかな坂になっており、両脇には俗に「鰐の寝床」と言われる間口の狭い、奥の長い敷地に町家が連続して建っている。

近年、諏訪町通りを中心に、八尾型住宅と呼ばれる伝統的意匠を取り入れた民家建築が再生されている。木造で漆喰壁や格子戸を用いた外観は、風の盆の踊りが似合う意匠として見直されている。

